

普及センターだより

# 未来 ひだか

みらくる

2015年1月

日高農業改良普及センター



迎春

新ひだか町 寺越政幸さんのひつじたち

## 年頭のご挨拶

日高農業改良普及センター 所長 山黒 良寛

新年、明けましておめでとうございます。

日頃、普及センターの活動に対しましてご理解とご協力を賜りお礼を申し上げます。

昨年はホッカイドウケイバの売り上げが2年連続で目標数値を超える結果となり、軽種馬の取引頭数も昨年を上回るなど、少しずつではありますが明るい話題も聞かれるようになりました。

また、主要施設園芸も出荷時期は軒並み遅れて始まりましたが生育は平年並みに回復し、売り上げは、昨年を超える高い水準を確保できました。肉用牛も依然高い市場価格を維持するなど、まさに午年にふさわしい日高の年となりました。

しかしTPP交渉は依然先行きが不透明で、農業を取り巻く世界情勢は厳しいものがあります。特に北海道農業への影響は大きくなると試算されています。

全国的には女性農業者、農業女子の活躍が進むなど、国民の健康を守り、環境にやさしい農業など、女性の視点から考える農業の展開に期待が高まっており、世界情勢を視野に入れた農業の振興に活かされるべきだと考えます。

この日高管内におきましても、女性が大いに農業の現場で活躍できる環境を整備していく飛躍の年になりますことを祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。

# 参考にしよう！ 地域の活動事例

～詳細は日高農業改良普及センターホームページで紹介しています～

アドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

## 日高管内農業研究大会に新企画！ 講師を招いて講演会開催 【管内全域】

日高管内の4Hクラブ員が企画運営する農業研究大会では、毎年、クラブ内や個人で取り組んだ「プロジェクト活動」やクラブ員が農業や地域に対する様々な思いを提言する「アグリメッセージ」が発表されています。

平成26年は農業研究大会実行委員がワークショップを通じて、今後の自分たちに必要な研修や、日高の農業をよくするためにすべきことを話合い、研修会という新たなプログラムの追加を決めました。

自らのスキルアップ、モチベーションの向上を目指して始動した、元気な日高の農業青年へ期待感が高まります。



実力者が勢揃い！ 農業研究大会実行委員



真剣、楽しく、新たな発見。ワークショップで意見交換

## 経営手腕を磨け！ 日高管内マーケティング研修開催

【管内全域】

平成26年11月27日、日高生産連ビルで「農業を元気にする6次産業化～何を売るか～」を演題に、株式会社道銀地域総合研究所コンサルティング部の上席研究員を招いて研修会を開催しました。

日高管内の生産法人などが抱える課題のひとつである「消費者ニーズにあった販路拡大手法（マーケティング）」について研修することで、日高管内の農業生産法人等の生産技術の向上と安定化を目指すことが目的です。

当日は法人経営者、関係機関が総勢41名が集まって講演に傾聴し、積極的な質問や、今後の経営の抱負などの有意義な意見交換が行われました。

今回参加できなかった方も、今後の研修や情報交換の場に積極的に参加し、是非とも日高農業を元気にする経営者になって下さい！！



「リスクを恐れ、できない理由を探すのは老化の始まり」にっこり笑って厳しい提言もありました



6次産業化に取り組む農場から参加者へアドバイスの発言

## トマト栽培の省力化を目指して！～2カ年の実証結果の概要～

【平取町・日高町】

働く人の高齢化や、労働力不足は園芸産地の深刻な問題です。このため「作業労働時間を短縮」して「収量維持」ができる省力化栽培法を目指して現地実証に取り組んできました。

この栽培法は慣行では40cmで定植されている株間を45cmに広げるもので、「栽植本数の減少による作業性や受光体制の改善」や「病虫害発生程度の軽減」「コスト低減」なども期待できる可能性があると考え、確認を行いました。

2年間の実証結果は下表に示したとおりで、肥培管理などに留意して樹勢のコントロールができれば、収量も維持・向上できる事が確認できました。

実証に取り組んだ方達からは

「栽植本数を約10%減らすことができるので、楽しんで作業ができ着果率も良く玉肥大も良いことから次年度も取り組みたい」との意見が出されています。

今後はこの結果を、高齢化や労働力不足の解消方法の一つとして、生産部会を通じて提案していきたいと考えています。

実証展示ほのまとめ

調査項目	2年間4カ所の実証ほど確認できたこと
作業労働時間	・定植作業で1時間20分/100坪の短縮 ・マルチ穴開け、定植、わき芽摘除作業で2時間30分/100坪の短縮
収量	・1株当収量：200～1000gの増収 ・100坪当収量：167～680kgの増収 *100坪当収量は一部減収したケースがあったが管理作業に由来する事として除外している
病害発生程度 (灰色かび病)	・発病割合が数%～30数%程度軽減された
その他	・中段以降の着果率が向上した ・育苗費（苗代）の経費節減 ・株間が広いので管理・収穫作業がしやすい



灰色かび病の少ないほ場

## コーンサイレージの共同収穫・貯蔵・管理の取り組み

【日高町】

平成25年から日高町の5戸の酪農家が飼料用トウモロコシを1カ所に集めて、大型のスタックサイロに貯蔵し、共同管理する取り組みを始めました。コーンサイレージは1日～2日に1回、当番が各戸に配送しています。

これまでは個別にタワーサイロや小型のスタックサイロを利用していたため、取り出しも手作業で、清掃に手間がかかり、サイレージの腐敗や廃棄も多く出ていました。

普及センターでは、1回の取り出し量を多くすることが腐敗防止に繋がることを説明し、サイロのサイズや作業工程の改善について提案を行いました。

取り組んだ農家の方からは「大型のシートや一部収穫作業の外部委託費など、多少の経費はかかったが品質が良く、労働負担も減ったので満足している」との意見が聞かれています。

<改善効果>

- ①サイレージの1回の取り出し量が大幅に増えたため、腐敗、廃棄が大幅に減った。廃棄が減ったことで、通年での給与が可能となった。
- ②これまではサイロが小さいため手作業でサイレージを取り出していたが、機械による作業が可能となった。



1回の取り出し量  
(70cm～120cm)

1回のサイレージの取り出し量は多い方が良い。腐敗を防ぐため、なるべく空気に触れないようにしたい！



取り出されたサイレージは各農家の牛舎前に配送されます

## 注目！ 地域の話題コーナー

ハウス団地が日高管内で新規参入者の研修や就農施設として  
増えています！各地の状況をお伝えします。

### 平成26年、利用開始！ 静内ハウス団地

就農希望者がミニトマト・ほうれんそうを栽培を研修

【新ひだか町】

新ひだか町では、静内目名地区に新規就農を目指す研修生を受け入れて、経営手腕を身につけるためのハウス団地（栽培ハウス10棟、育苗ハウス1棟）を設置しています。ここでは平成26年4月から中道指導農業士の栽培指導を受けて、2組3名の研修生がミニトマトや後作のほうれんそうの栽培に汗を流して取り組んでいます。

5月に定植して9月まで収穫したミニトマトの生産量は5.6 t / 10 aと上々の実績で、就農に向けて今後の取り組みが期待されています。

同地区では平成26年10月までにハウス10棟、育苗ハウス1棟の増設が行われ、この施設を利用して、12月には新たに研修生3組5名が研修をスタートさせています。普及センターでも研修生や新規参入者を対象とした農業講座を中心に、技術支援を行っています。



平成26年4月から研修を開始した皆さん



ミニトマト収穫作業

### 新規参入者の営農の場としても機能する いちごハウス団地

【浦河町・様似町】

浦河町と様似町では夏秋どりいちご（夏いちご）の栽培に取り組む新規就農者が年々増加しています。現在、浦河町では4組の新規就農者が(有)グリーンサポートひだか東富里いちごハウス団地（栽培リースハウス20棟）で営農を行っています。様似町でも平成25年に1組、26年に3組の新規就農者が田代地区にある様似町いちごハウス団地（栽培リースハウス19棟）で営農を開始しました。

また、平成27年以降に浦河町と様似町に就農予定の研修生8組が、平成26年度から浦河町の指導農業士が経営する管農園と、(有)グリーンサポートひだか東で、いちご栽培の研修に励んでいます。



様似町の新規就農者  
（様似町いちごハウス団地）



浦河町の新規就農研修生  
（夫婦で研修中）

日高農業改良普及センター本所 TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521  
〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高東部支所 TEL 0146-22-9347 FAX 0146-22-2559  
〒057-8558 浦河郡浦河町栄丘東通56号 日高振興局内

日高農業改良普及センター日高西部支所 TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918  
〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>